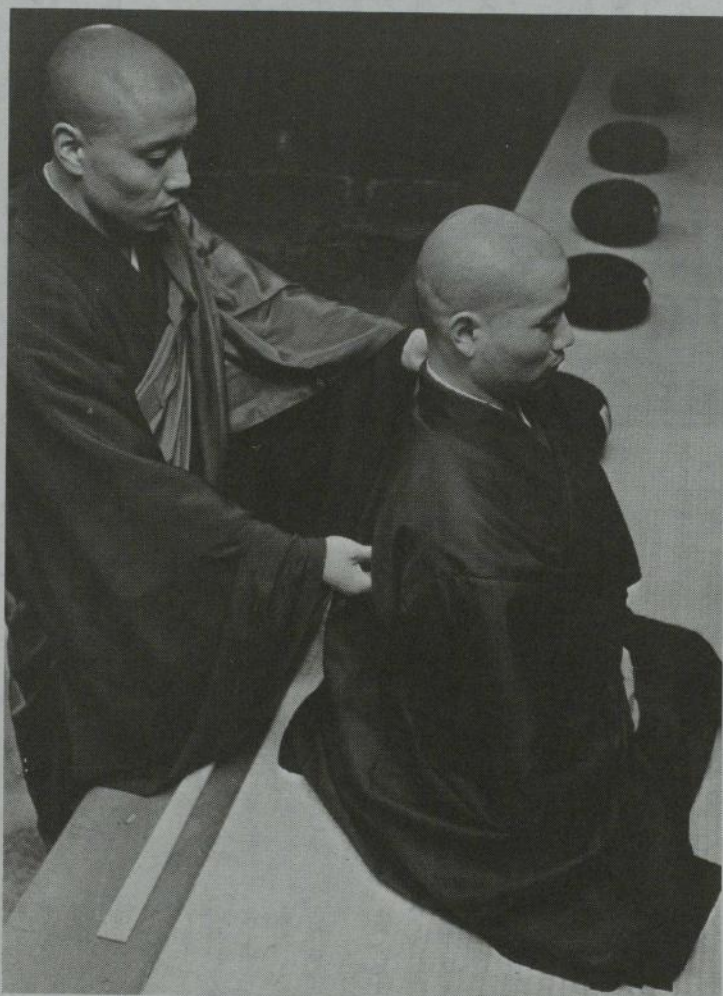


# 全 仏

5 / 55



## 「母の日」

父母恩重經に「人の生を受くるは、宿業を因とし、父母を縁とす。父にあらざれば生ぜず、母にあらざれば育たず…」とあります。

古今東西を問わず、母の子に

対する影響は大なるものであります。心豊かな母親の教育無しでは、人間らしい人間は育たないのであります。

最近では物質面ばかり追及するあまり、精神面の退廃は目を覆うものがあります。経済が文化をあと押しする姿がのぞましい

のですが、現状は経済が優先しております。

母の日を迎えるにあたり、仏が衆生をあわれみ、母の子をおもいが如く、他人をおもい、お互いにおもい合う「仏心」の教育こそ、特にのぞまれる今日です。

(K)

行 シリーズ② 只管打坐(曹洞宗)

(解説8面に)

全日本仏教会

# 海外布教の現況と展望

①

## 真宗大谷派

## ハワイなど三地区

現在、大谷派ではハワイ、北米、南米の三区を海外開教区と定めている。以下当派の開教区の現況と展望について記すのであるが、日本において把握され得る範囲内の事柄は、時に皮相的とならざるを得ない事象もあり、すでに新しい展開をみている場合や、展望が未だその緒についていないときもある。このたびは各開教区当面の課題を中心に報告したい。

### ハワイ開教区

一八九八年、山田賢竜師により先鞭がつけられ現在に至る。ホノルル市に別院ハワイ開教監督部があり、他にワイアヘ、マツカレ、カネオヘ、ヒロ、パロロと五カ寺。全土に約八千人の門信徒。

福原法仙開教監督以下七名の開教使が定例法会、年中行事を中心に、諸々のサークル活動（柔道、華道、茶道、ポーツカウトなど）や同朋の会サーピラスを活動に行い、真宗仏教伝道に日々精励している。

目下、開教区最大の課題は別院移転新築事業である。別院は現在、ホノルル市バンヤン街に在るが、建物の老朽化がはなはだしき、開教区では移転を計画、最近クアキニ街に新敷地を購入、新築への

第一歩を踏みだした。総工費七億円の新別院には、東西精神文化の合流地に位置する開教区としての、教学の一層の進展



深化を計るため、教学研究所を設置する予定である。

### 北米開教区

開教監督部の在る羅府別院の前身、羅府仏教会は一九〇四年、西本願寺の僧籍を有つ泉田準城師により創設された。

開教区には羅府別院（伊東抱龍開教監

督兼輪番）を中心に、パークレー東本願寺、シカゴ仏教会があり、開教使八名、門信徒約六千人。開教方途は前述ハワイのそれと大略相似しているが、特にシカゴ仏教会を介して、大谷大学とウイスconsin 大学との学术交流が近年盛んになってきたことは、今後の当派海外開教の拓くべき分野を暗示している。今後三年間ウイスconsin 大からの留学生も内定しており、また大谷大教授による出講も毎年続いている。

次に本年は北米開教区主催による汎太平洋同朋大会（八月二十二日より）が羅府市で開かれ、日本からも派遣団が参加する。大会テーマ「我いま親鸞に聞く」のもと、大谷大・広瀬学長、ハワイ大・A・ブルーム教授が講義することになっており、参加受付中である。

### 南米開教区

ブラジル・サンパウロ市のブラジル別院南米本願寺（磐井美開教監督兼輪番）を中心に、サンパウロ、バラナ、リオ、アマソナス、ブラジリアに十八カ寺、四布教所、八仏教会を有し、開教使二十名係員嘱託十九名、全伯に門信徒約三万人がいる。

開教の歴史は比較的浅く、昭和二十七年すでに渡伯していた天野晃順師の開教使任命を以って始まる。開教区では南米開教二十五周年を期して南米教化センターを別院内に増築、今年三月「南米真宗教学研究所」を発足せしめ、現地伯国人に対してより正確な真宗仏教伝道のための翻訳事業を開始した。研究所は「日伯文化研究所」を併置し、サンパウロ大学教授、大学院学生の応援を得て翻訳出版の作業を推進している。

人材の養成 当派海外開教は言うまでもなく真宗仏教の教化をその使命とする。真宗仏教を世界に拓くべき使命である。従来当派の開教は一世中心に偏し時代が急速に二―三世の時代へと移行している今日、それに対応した人材の発掘が考えられねばならない。しかしながら、開教使の語学能力などの技術的問題と同時に、何よりも強く要請されるべきは、開教使自身の真宗仏教に生きる情熱でなければならぬ。信心に生きる開教使の生きざまこそが人々に真宗を語り、伝えるのである。そのような視点に立つての人材養成を心がけている。

また、開教ということを決意しとどめず、仏教学術交流、仏典翻訳宣布、海外教学の振興、開教使以外の人材との交流など、広い視野に立つて全般的な宗門の使命と果し得る可能性について考えていきたいと願っている。

【写真は南米開教区の「花まつり」】



⑥

一九七〇年、日本の大学では安保条約の政務をめぐる暴力的な空気が充満していた。当時私は立正大学の英語教師であったが、そのような空気に吐気を催して学園を辞しセイロンへの旅に出た。

私のセイロン島滞在は半年にもみない短いものであったが、その地で受けた印象は今もって深く私の胸に焼きついている。

私はコロンボ郊外のケラニヤにあったヴィドヤランカーラ大学の教員宿舎にたたかく迎えられた。三階建ての宿舎で一階にはパンニャーサーラ大僧正以下が、また二、三階にも僧侶で教員を務めている人々が生活していた。当時パンニャーサーラ師は七十余歳であつたらうか、全身が白毛におおわれていたので私はすぐに白熊を連想した。師はその時すでに大学のバイスチャンセラー(副学長)を辞していたが、なおもセイロン仏教界の最高指導者として僧や人々の尊敬を集めていた。私は師より三衣一鉢を与えられて黄衣の生活に入った。

私の直接の指導者はタンマキッティ師がひきつづけた。私と同年齢で色がまっ黒で、大学でシンハラ語を教えていた。三

階の住人で彼の部屋には常時、大学生や若い僧たちが一層に寝とまりしていた。六時に起きてヴィハーラヤ(仏像をまつた堂)で礼拝をすませ、朝食をとり一日が始まる。私のところでは托鉢は行わず、学生食堂又は自室で朝食をとった。半がゆにミリッチ(唐辛子のねり物)をぶち込んでたべた。一汁も一菜もなかった。

私は宿舎に住んでいる若い教師たち(皆僧であった)からシンハラ語、パーリー語、セイロン仏教史などを学んだ。

# スリランカの日々

—セイロン島滞在の思い出—

及川真介

といえは聞えがよいが、南島の昼間はそう簡単ではなかった。午前中はまたよかつた。実をいうと、午後の半分は昼寝に空費されていた。暑さと満腹のためである。

セイロンの人々は坊さんに施すことが好きである。金銭の施については私は知らない。もっぱら食物の施を私は毎日のように受けた。十時頃になると、今日はどこでどこでダーナ(施会)がある。一緒に来なさい。といつて来る。そこで師のあとにくっついて、五六人で、多い時は、

二十人ぐらいで、そろそろ信徒の家にしかけて行く。慶事用事を問わず、ピリット(呪経)をとまえ、法話を行つてから、盛沢山のごちそうの施を受ける。家人たちはひたすら給仕につとめる。僧と俗とが一緒に同時に食をとることはない。明日の朝までは御飯にありつけないのだという念があるから、ただひたすら腹の中につめ込む。私はこの島で胃拡張になつたようだ。

で用をたせるようになったので、一人旅を思いたつた。師たちは道中のことを思つて止めたが、私の決心が堅いのにはまけて、紹介状をもたせてくれた。この者はあやしい者ではない。どうか一夜の宿を与えてやってほしい。という内容をセイロン語でタイプしてくれた。

私は黄衣をまとつて、南端のティツマハーラーマを目的にバスと徒歩で旅をつづけた。パンニャーサーラ師の名声は全島にとどろいたので、師の紹介状の靈驗は実にあらたかであった。どここの寺でも、快よく宿めてくれた。ただ南京虫とノミには閉口した。昼食時に田舎道をたどっていると、見知らぬ家から声をかけられる。ハムドゥルオー(お坊さん)と。今、ご飯が出来たから、あなたに供養します。私は有難く施を受けた。感謝の気持ちをセイロン語でうまく表現出来ないのがもどかしく悲しかった。

マータレーの町のガンガチラカ寺に止宿した夜、ハリケーンが襲つて来た。雨と風の一夜が明けると町は洪水で交通機関、通信機関が全部とまつていた。寺の崖下を茶色の濁流が首を立てて流れ、来る夜も来る夜も停電でまっ暗であった。昼間、散乱した境内の整理におわれ、一本の灯明の下で若い僧たちと語り合った。セイロンのこと、日本のこと、世界のこと、将来のことを。ほの暗い夜、荒廃したあれ寺の一室で肩を寄せ合う彼等のひとみの中で、伝統と現実がぶつかり合つて火花を散らしていた。

# 全仏推せん候補

## 第十二回参院選挙「第二回分」

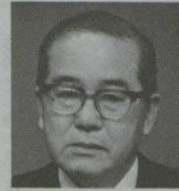
来る第十二回参議院議員通常選挙にあたり、全仏加盟の宗派、県仏、団体より推薦申請のあった立候補予定者に推薦状を交付して支援する。

推薦候補者は仏教徒として、当選の暁には、強力なる仏法の護持者としての活躍が期待される。

①推薦団体 ②略歴 ③現職

### 全 国 区

田中正巳 62歳 自民・新



①日本仏教教育協会 ②東大卒 厚生政務次官 北海道開発政務次官 衆院文教委員長 厚生大臣

伊藤いくお 49歳 民社・新



①浄土宗 ②岡谷南高卒 日本社会新聞社 党機関紙委員会事務局次長 ③党本部組織局長 長、新護憲幹事

### 地 方 区

北海道

坂下 堯 58歳 社会・新



①北海道仏 ②東京高等獣医卒 浜頓別町教育委員、同町農協組合長 同町々長 北海道議

青森県

山崎 竜男 57歳 自民・現



①曹洞宗 青森県仏 ②弘前大卒 東京慈恵医大 医学博士 ③科学技術部会長 運輸委員会理事

岩手県

増田 盛 66歳 自民・現



①曹洞宗 ②京大卒 農林省振興局長 北海道開発政務次官 ③全国山村振興連盟副会長

宮城県

遠藤 要 64歳 自民・現



①真言宗智山派 ②白石高等小卒 県議 たはこ耕作 県議会議員会長 ③大蔵政務次官

秋田県

佐々木 満 53歳 自民・現



①曹洞宗 ②東大卒 厚生事務官 県企画調整部長 参院政審社会部長 ③北海道開発政務次官

福島県

佐藤 栄作久 40歳 自民・新



①浄土宗 ②東大卒 郡山青年会議所理事長 日本青年会議所副会長 ③郡山商工会議所常議員

福島県

鈴木省吾 67歳 自民・現



①天台宗 ②東大卒 福島県議 農林政務次官 参院農林水産委員長 ③参院通信委員事 県畜産会長

茨城県

曾根田 郁夫 55歳 自民・新



①真言宗豊山派 茨城県仏 ②東大卒 厚生大臣官房長 厚生省年金局長 社会保険庁長官 厚生事務次官

山形県

安孫子 藤吉 75歳 自民・現



①浄土宗 ②東大卒 食糧庁長官 山形県知事 県連会長 外務委員長

栃木県

大島 友治 63歳 自民・現



①天台宗 ②京大卒 県農業経済課長 農務部長 ③参院文教委員長 党総合農政調査会委員



夏目 忠雄 70歳 自民・現  
①浄土宗 長野県  
②東大卒 長野  
野市長 参院物価  
対策特別委員長 ③  
科学技術庁政務次  
官



吉田 実 69歳 自民・現  
①本願寺派 ②東  
大卒 富山県知事  
衆議院議員 農  
協中央会々長 ③  
エネルギー対策特  
別委員長



栗栖 弘臣 60歳 民社・新  
①本願寺派 仏政  
同 ②東大卒 統  
合幕僚会議事務局  
長 陸上自衛隊幕  
僚長 ③軍事評論  
家



安井 謙 68歳 無(自推)新  
①東京都仏 ②東  
大卒 参院自民党  
幹事長 自治大臣  
総理府総務長官  
自民党都連会長  
③参院議長



前田 勲男 37歳 自民・現  
①和歌山県仏 ②  
慶応大卒 科学技  
術庁長官秘書 同  
和対策特別委  
員 党青年  
局長



中西 一郎 64歳 自民・現  
①本願寺派 兵庫  
県仏 ②東大卒  
農林大臣官房長  
経済企画庁国民生  
活局長 通商産業  
政務次官



望月 邦夫 61歳 自民・現  
①浄土宗 ②京大  
卒 河川局開発課  
長 近畿地方建設  
局長 県連会長  
参院文教担任委員  
長 ③国土政務次官



大木 浩 52歳 自民・新  
①曹洞宗 ②東大  
卒 外務省東欧第  
一課長 外務大臣  
官房総務事官 ホ  
ノルル日本国総領  
事



永野 敏雄 61歳 自民・現  
①本願寺派 ②東  
大卒 東京地方検  
察庁検事 弁護士  
広島県知事 参院  
地方行政担任委員  
長



加藤 武徳 63歳 自民・現  
①岡山県仏 ②中  
央大卒 労働政務  
次官 岡山県知事  
自治大臣 北海道  
開発庁長官 党副  
幹事長



亀井 久興 39歳 自民・現  
①曹洞宗 島根県  
仏 ②学習院大卒  
議員秘書 参院党  
幹事 参院党国対  
副委員長 郵政政  
務次官



石破 二郎 71歳 自民・現  
①浄土宗 ②東大  
卒 建設大臣官房  
長 鳥取県知事  
県支部連合会長  
③参院外務委員長  
党法務部会長



本村 和喜 43歳 自民・新  
①福岡県仏 ②立  
命館大卒 議員秘  
書 県議 党戸畑  
支部長 ③北九州  
業会長 北九州パ  
レーボール協会  
会長



谷川 寛三 59歳 自民・新  
①高知県仏 ②東  
大卒 大蔵省理財  
局長 東京国税  
局長 大蔵省関税  
局長 電源開発理  
事 衆議院議員



仲川 幸男 63歳 自民・新  
①愛媛県仏 ②伊  
与農高卒 松山市  
議、愛媛県議 全  
国高校PTA協議  
会々長 仲川建設  
KK会長



内藤 健 48歳 自民・新  
①本願寺派 徳島  
県仏 ②六吹高卒  
徳島県職員 徳島  
県議 県連組織委  
員長 ③県連総務  
会長



福岡県 蔵内修治 62歳 自民・新

①本願寺派 ②東大卒 衆院議員 労働政務次官 自民党総務 衆院内閣常任委員長



長崎県 初村滝一郎 65歳 自民・現

①曹洞宗 ②五島中卒 県漁協連合理事 県連会長 参院党副幹事長 国民運動副部長 ③離党振興委員長



熊本県 田代由紀男 63歳 自民・現

①浄土宗 ②東亜同文書院卒 熊本県議 県議会議長 県体協副会長 県森林組合理事 党県支部連合幹事長



大分県 後藤正夫 65歳 自民・現

①西山浄土宗 ②横浜高等工校卒 内閣技術院参技官 行管統計基準局長 ③参院地方行政委員長 大分大学長



鹿児島県 川原新次郎 62歳 自民・新

①本願寺派 ②廉屋農高卒 喜入町長 林組会長 ③鹿児島県開港促進委員 喜入町農協組合長 同町漁協組合長



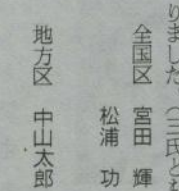
鹿児島県 井上吉夫 56歳 自民・現

①浄土宗 ②熊本工高卒 県議会議長 大蔵政務次官 ③予算委員会理事 党国民運動本部副部長



沖縄県 大浜方栄 52歳 無(自推)新

①本願寺派 ②熊本医大卒 沖縄県医師会会長 沖縄県教育委員会委員長 ③大浜第一病院長



全国区 松浦功 東京都仏教連合会 日本仏教保育協会 地方区 中山太郎 和宗

前回掲載分につき左記の候補者については、その後、左記推薦団体の追加がありました。(三氏とも自民)

### 日宗連の新役員

理事長に鱒淵正浩師

日本宗教連盟(全日本仏教会、教派神道連合会、日本キリスト教連合会、神社本庁、新日本宗教団体連合会)では、四月二十二日午後四時より、東京・芝の明照会館会議室において理事会・参議会を開催し、五十四年度事業報告ならびに五十五年度事業計画、予算などを審議し、それぞれ承認された。

また任期満了に伴う新役員の選出では本年度の年番にあたる全仏の鱒淵理事長が、日宗連理事長に選出された。全日本仏教会関係は次のとおり。

- 理事長 鱒淵正浩(理事長) 浄土
- 顧問 鎌田憲英 西
- 監事 日野照護(事務総長) 東
- 参議 桜井大乗(常務理事) 曹洞
- 野村宗春(評議員) 浄土
- 白川良純(専門委員) 東
- 松岡義雄 西
- 事務局長 馬場道男(庶務部長) 曹洞
- 担当 田代弘興(組織部長) 豊山

### 哀悼

松尾 太年師(臨済宗円覚寺派管長) 三月十九日、脳血陰のため遷化。七十五歳。建仁寺塔頭推雲軒住職、東京・月桂寺住職を経て、昨年九月に円覚寺派管長に推戴されたばかりである。

森 龍吉氏(龍谷大学教授) 三月二十二日、心不全のため死去。六

十四歳。種智院大学、成安女短大等を經て龍谷大経済学部教授。日本宗教学会評議員。親鸞研究で知られ「親鸞その思想史」などの著書がある。日本仏教文化会議のレギュラーでもあった。

### ◆掲◆示◆板◆

臨済宗円覚寺派

▼同派では急死された松尾前管長の後任として足立大進師を推戴した。 浄土真宗本願寺派

▼同派の「伝灯奉告法要」は四月一日はなやかにスタートした。門主就任披露と同派隆盛を期して十月六日まで六十二日間修行される。

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

# 株式会社 浜田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

# 少年非行と仏教

文化専門委員 岩堀 至道

昨今もまた少年非行の問題に悩まされる。たゞ問題点が色々に変わってきたのだと思う。教師を殴る生徒は、昔はいなかったし、身をはって生徒をかばう教師も少なくなったように思われる。

総じて技術化された教育現場から生じた問題が多いのではないかと思ったりもする。例えば試験答案でも、〇〇について述べよというのが少くて、棒を引いたり丸でかこったりという記憶力に頼る能率主義が増えてくると、生徒の表現力は失せてくる。

暴力は昔からあったが、生徒同士が多かった。自殺は大変少なくて、小、中学生の自殺等、戦後私が扱ったのは二件しかない。それも、家庭の事情といった救いがたいモノを持っていた。

## その背景も変わった

私が非行少年問題の現場から去って二十一年近くになるが、考えて見ると貧困から生まれる非行が少なくて、所謂落ちこぼれからくる問題の方が多いように思う。

総じて誰でもが進学するようになること、学校入学が問題だし、入学する為の異常なまでの詰め込みと、不正が生れ、学校が出来て、教育がなくなつたという風な問題が、実は意外に多いのではないだろうか。

少年非行と言えは愛情の欲求不満とか貧困からの放任とか、非常に厳格な教育からの反抗とか、過保護の甘えとかいつたものが以前から指摘され、実際にまたそういうケースが多かつたように思う。

それに代って経済成長後の特長は、進学競争からの落ちこぼれとか、過保護による反自立の状況とか、少年時代の大らかな遊びの減退とか、乗物とか、その背後にあるエゴイズムの反乱等が背景になっているようだ。勿論これは厳密な調査結果による分析ではない。

従つて学校の教育技術もプラスαを指向し、プラスβであつてはならない為には教育が技術におされている点もあるような気がする。

同時に進学に重点を置く家庭の驕も、勉強第一主義で、所謂教育ママ的存在が

以前よりも増えたように思う。

大学は学問の府である前に就職の有利さを競うという結果になると、昨今の大学入試不正事件等も当然に出てくる。学校自体も考えなければならぬ問題点があるように思われる。

## 二つの殺人事件

さて、それらの中で最も端的にショッキングな事件は小六の祖母殺し、十三歳児の母殺しの事件であった。

親殺しは、かつて無かつたとは言えない。しかし、母いじめの父に対する憤慨から酔っぱらいの父を殺すといったものであった。

今回ののはちがう。

十四歳以下の少年は殺人罪にならないと民法で学んで、母親を小遣欲しさから殺したということである。——いずれ細かく調査の上で再論したいが、欲望充足を教える近代児童心理学もあるが、母親をその為に殺していい等とは勿論言つてはいない。

従つて、この事件は、従来の事件とは次元を異にしている点で深く注意しなげればならないと思う。

時代の合理精神のもたらした、これは一つの典型であるような気がする。罪に問われないから母を殺すというのは、何という錯誤かと思う。

仏教が今日家庭から遠去かり、高々、

法事ということで檀家と寺のつながりが成立しているような気がする。

法事が形骸化されてき、仏教が形式だけ残つて、仏教という教えが、家庭内の教義、情操から遠去かりつつあるのが現代仏教の大きな衰退であると言われても仕方がない。

## 家庭を離れた仏教

そう言えは、寺でやってきた子供達への参加……子供会やら花御堂やら、盆おどり等も、どこかで、まとめてお義理にやつてはいるが、各々での行事や仕事からは、全く姿を消している。各々々の、信徒への教導も少なくなっているのではないだろうか。

仏教が生きているということは社会の中での倫理生活を規制するということであつて、法事という儀式化を指すのではない。

だから少年非行の問題、特に母殺しの最新事件は仏教が家庭の中に生きていなくなつた証左のように思われる。仏教と少年非行の具体的な評論はこの辺では紙数がない。そこで一つだけ言うが、三十年前まで、例えば少年院、鑑別所での少年達の中では仏教日曜学校をほとんど知らない子達だった。仏教はそれまでは各寺院を通して家庭教育の驕の根幹だったのが、現在にはそれが無い。後は又云う。

(全青協総長)

### 組織専門委員会開く

組織専門委員会（神野真一委員長）では、三月二十六日午後四時より、任期最後の委員会を全仏会議室にて開催。勝部組織局長、神野委員長挨拶のあと、今秋開催予定の第二十七回全日本仏教徒会議を中心に、税務対策、宗法立幼稚園・保育園、同和問題、商標問題などについて熱心に討議した。

①第二十七回仏教徒会議については、本年度は都内において開催する方向で話し合い、これを機会に過去の大会をふり返り、今後の大会のあり方についても討議され、大会にあまり経費をかけずに、しかも統一したテーマで行う必要があるのではないかなどの意見がだされた。

②税務対策は、今後宗教法人に対し決して等閑視できない状態であり、③同和問題については、過去三回開催された同

委員会の経過報告と、これからの活動などが話し合われた。

また、宗法立幼稚園・保育園の問題や商標登録の問題についても討議され今後の方針につき意見がだされた。なお任期満了にともない勝部局長と田代部長より各委員の先生にお礼が述べられた。

出席者：久保聖太清、神野真一、大多喜義忍、小林昭延、河野亮永、美濃部薫一、船口暉子。

#### 事務総局録事(四月)

- 三日 山口県下へ
- 八日 日宗連理事會
- 十一日 局内會議
- 十五日 ルンレニ準備會
- 二十一日 機構改革特別委員會
- 二十二日 日宗連理事會
- 二十八日 局内會議

### …表紙の写真…

#### Ⅱ 只管打坐Ⅱ

曹洞宗の坐禅は「只管打坐」であり、それは「本証妙修」としての坐禅である。

本証とは、われわれは本来(さと)証されるもの、妙修とは、さした上での修行(坐禅)ということ。それは仏行としての坐禅であり見性を主とする禅と異なり、「衆生から仏へ」とい

く「仏から仏へ」の坐禅である。

われわれが現実を反省するとき、とうてい凡夫で仏とは思われないがここに仏祖の証明を確信して坐禅する絶対の信と、同時にまた妙修(坐禅)なくしては本証はないことに思いをいたさねばならない。

この法は人人の分上にゆたかにそなわれりといえども、いまは修せざるにはあらわれず、証せるには得ずることなし。(正法眼蔵弁道話)

## 寺院用 財務帳簿

価格 五、八〇〇円  
(何れも送料加算)

六月から定価改定 すぐお申込みを!!

(用紙その他材料が何回となく値上りしていますので)

便利なノーカーボン複写伝票・26穴バイнда(2コ)付

現金の出入れから決算までの記帳が添付の記入例でスグ分り  
どの用紙も金額の十進毎に罫を入れ、上欄に金額単位入り

(伝票・用紙一覧)

入金伝票	伝票	入金伝票	伝票	入金伝票	伝票
支出伝票	伝票	支出伝票	伝票	支出伝票	伝票
領収書	領収書	領収書	領収書	領収書	領収書
納金簿	納金簿	納金簿	納金簿	納金簿	納金簿
貯蓄簿	貯蓄簿	貯蓄簿	貯蓄簿	貯蓄簿	貯蓄簿
整理簿	整理簿	整理簿	整理簿	整理簿	整理簿
物品受払簿	物品受払簿	物品受払簿	物品受払簿	物品受払簿	物品受払簿
別科別支集	別科別支集	別科別支集	別科別支集	別科別支集	別科別支集
月計表(収入・支出)	月計表(収入・支出)	月計表(収入・支出)	月計表(収入・支出)	月計表(収入・支出)	月計表(収入・支出)
予決算	予決算	予決算	予決算	予決算	予決算
財産目録	財産目録	財産目録	財産目録	財産目録	財産目録
財産台帳(17種)	財産台帳(17種)	財産台帳(17種)	財産台帳(17種)	財産台帳(17種)	財産台帳(17種)
歳計剰余金処分書	歳計剰余金処分書	歳計剰余金処分書	歳計剰余金処分書	歳計剰余金処分書	歳計剰余金処分書

## 寺院用 勘定科目等ゴム印

(三十六種) 定価四、二〇〇円

寺院経営の頭脳です。安心して布教活動を

## 寺院ハンドブック

全5巻 定価三八〇〇円  
一四、二〇〇円

(巻別・著者)

墓地 編 荒川元暉氏(もと文化庁宗務課勤務・現在在職)

宗教法人編(上) 下 荒川元暉氏外法務省の登記法担当官二氏

税務・事業会計編 桜井四郎氏(もと税務大学教授)野村郁夫氏(税理士)

布教資料編 荒川元暉氏ほか教氏

(すべてについて  
見本・説明書送呈)

三三 成書房

東京都中野区南台四一三九一四(千一六四)  
電話(〇三)三八一―五八四九番

昭和五十五年 五月一日発行  
五月号 第一五八号

発行人 日野照護  
編集人 安本利正

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四十七三三  
電話(〇三)四三三七)九七七五